令和２年度 長与町学校評価（共通の評価項目）報告書

長与町立（ 長 与 中 ）学校

１　共通項目

項目	重点目標及び取組内容	評価	分 析 （及 び 改 善 策）
心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現	1 豊かな心の育成 （1）いじめへの対応 ・サインに気づき、生徒理解とトラブル発見 ・未然防止、早期発見、早期対応	3.6	○いじめ対応については、毎日の生活の記録や日々の見守り、毎月の悩み調査で情報を把握し、全職員で組織的かつ迅速に対応した。 ○毎週の生徒指導部会、特別支援部会で諸課題を共有し、対策を立てて組織的に対応した。ＳＳＷや子ども政策課等、外部機関との連携も図った。 ○電話連絡や家庭訪問による欠席がちな生徒への対応や完全不登校生徒の特殊出席扱い対応により、学習や進路への意識変化を促すことができた。 ●不登校生徒が昨年度の半数程に減少したがまだ解消できていない。
	（2）情報共有と迅速な組織対応	3.5	
	（3）不登校への対応 ・個に応じたきめ細かな対応	3.6	
	（4）通いたくなる学校 ・学校が楽しい（生徒アンケート）	3.4	
	2 基礎学力の充実 （1）分かる授業の実施 ・分かる授業、できる授業のための授業改善	3.5	○研究発表に向けて、教師の授業改善への取組は熱心であった。 ○本校生徒の基礎学力の向上のために、ながよ検定へ向けた地道な取組も定着しつつある。 ●生徒・保護者とも家庭学習の不十分さを感じている。しかし基礎学力定着のための家庭学習の習慣化になかなか繋がらないところが課題である。
	（2）家庭学習の習慣化に向けた指導	3.4	
	（3）学習規律と学習習慣確立に向けた取組	3.4	
	3 健康安全教育の推進 （1）心身の健康・安全についての指導	3.2	○コロナの防止対策や新しい生活様式の定着のための指導、誹謗中傷等への加害、被害への防止対策など全職員が一丸となって指導徹底を行った。 ○様々な学習会を実施し、安全管理への意識を向上させた。（メディア安全、DV 防止、性教育、食育、薬物防止） ●体育大会や県中総体をはじめ各種大会が中止や条件付き開催となり、生徒の体育的な活動を充分行えなかった。
	（2）体育的行事や部活動による、たくましい生徒の育成	3.1	
	（3）生徒の危機管理意識と自己防衛力の育成 （アレルギー、SNS、薬物、ＤＶ等）	3.6	
	4 特別支援教育 （1）一人ひとりのニーズに応じた支援 ・支援計画や理解支援シートの作成と活用	3.2	○特別支援教育部会を中心として情報共有と対策の検討を行い、指導方針を共有するとともに細やかな支援指導を行う体制ができている。 ○生徒の困り感を把握し、細やかに対応する姿勢を各職員が意識しており、個に応じた指導実践を行っている。
	（2）困り感のある生徒の状況共有と対策検討	3.5	
	（3）困り感のある生徒への支援や言葉かけ	3.5	
	5 国際化への対応 （1）日本人としてのアイデンティティの確立 ・日本の文化や地域の理解、協調性や人間性の育成	2.9	○各学年で実施可能な学習活動を設定して、総合的な学習を実施した。 ●地域との交流学習や職場体験学習、修学旅行など、生徒の視野を広げ、社会に学ぶ機会が減少した。 ●コミュニケーションの機会やグローバルな視点を磨く機会を具体的につくることが困難であったこともあり、どの項目も達成度が低下した。
	（2）コミュニケーション能力の育成 ・他を認め、ともに高め合う意識や対話力の育成	3.0	
	（3）グローバルな視野と融和の精神 ・世界の情勢や人としての在り方についての考察 ・広い視野を持つことの大切さの考察	3.2	
	6 教育環境の整備 （1）ＨＰやメールを活用した安全確保等の連絡	3.2	○コロナ禍での緊急連絡や安全確保の徹底においてメール通信やＨＰの活用は有効であった。 ○教室環境の整備は、生徒の保健安全と密接に関わりがあり、環境整備を全職員が一丸となって徹底した。 ●感染症防止のため、タブレットの共用が制限され、十分な活用ができなかった。
	（2）タブレットや電子黒板等の学習機器の活用	3.1	
	（3）日常の環境整備、資源のリサイクルへの心がけと生徒への指導	3.4	
	7 教職員の資質向上 （1）指導力向上に向けた研修意識の高揚	3.4	○深い学びにつながる対話に関する研修を全職員一丸となって行った。 ○生徒の安全を第一と考え、職員同士の食事会や酒宴は一切行っていない。 ○ＰＣ掲示板での迅速な連絡と全曜日に網羅した各種部会での確認を生かして、連携を深めた。
	（2）服務規律の遵守と体罰やハラスメントの撲滅	3.8	
	（3）風通しの良い職員室づくり	3.5	

２　自己評価のまとめ（成果・課題等）

（１）成果

①　各種委員会の連動による生徒の状況把握と共通実践の充実

・月：運営委員会　　火：特別支援教育部会と学年部会（放課後）
　水：生徒指導部会　木：研究推進委員会と職員全体会（放課後）

・情報共有と共通実践の連絡系統が週単位で機能したことで、生徒への個別支援が充実した。（昨年度の課題・・・個人差に応じた指導体制）

②　生徒一人一人を見守り、高める意識の高揚

・教職員一丸となって深い学びを実現する主体的・対話的学習活動を模索した。

・コロナ禍での学びの機会の大切さを教職員も生徒も実感し、新しい生活様式の共通実践や学習活動が充実した。

・不登校の生徒が登校して、学習活動や進路の実現に向けた取組を始めた。
　（昨年度の課題・・・不登校生徒の教室復帰）

③　職員朝会撤廃による朝の生徒の見取りと朝活動の充実

・落ち着いた学校生活は、落ち着いた朝のスタートから

・職員が見守る朝読書と朝学習による学習規律の改善と基礎基本の定着
　（昨年度の課題・・・規律心や協調性の育成）

④　業務体系の見直しによる働き方改革

・日没の時間を考慮し、１１月の部活動の時間を改定することで、生徒の下校時の安全を確保した。

・土日業務を月初めに入力して勤務時間を管理するとともに、複数顧問は時間を分担して部活指導を行うことで、時間外勤務を減らした。
　（昨年度の課題・・・ガイドラインの遵守と活動の見直し）

（２）課題等

①　家庭や家族関係に起因した生徒問題増加への対応

・生徒の命に関わる問題や家庭に起因する問題が発生し、町教育委員会や子ども政策課、児童相談所などの関係機関と連携する事案が増加している。

②　個人差に応じた指導体制

・様々な特性を持つ生徒の割合が増加し、ＳＣやこころの教室相談員、特別支援教育支援員など、生徒一人一人のニーズに応じた教職員との連携が重要となっている。（要配慮生徒の支援）

・ＬＤやＡＤＨＤ等の傾向を持った生徒が散見され、生徒の実態や特性を把握し、家庭の理解と協力を得ながら個に応じた指導を行うことが重要である。
　（個人差への対応）

③　業務の効率化と質の高い教育の実現

・改定学習指導要領の趣旨を理解し、指導と評価の一体化を意識した授業改善研修を行う。

・ＧＩＧＡスクール構想の有効定着のために、Ipad を生かした授業改善と指導と評価の一体化を進める。

３ 学校関係者評価

新型コロナウイルス感染対策のために、長崎県独自の特別警戒警報が１月１８日から２月７日まで発令されたため、令和２年度長与中学校第２回学校支援会議は中止とし、その場で行われる学校関係者評価は、郵送書類による学校評価提示として、学校評価の妥当性や学校教育活動に対する意見・要望等は、文書によって収集した。

評価の妥当性及び、校関係者評価の意見等については、別紙用紙に記載。

４ 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

・学校関係者の意見では、生徒の地域での様子として「挨拶をよくする」という言葉をいただいた。地域の方が優しく見守り、成長を喜んでくださる姿勢が、生徒たちの前向きな姿勢を引き出していると感じた。生徒たちの成長を喜びとして教育活動を進めるとともに、生徒の良さを伸ばし、生徒自身が伸び伸びと活動していけるような言葉かけや指導姿勢を心がけ、生徒や保護者と強い信頼感で結びついた学校づくりに励みたい。

・学校評価については、「妥当である」という評価をいただいたが、豊かな心の育成と家庭学習・学習規律の定着の評定値に疑問を呈する記述や意見が見られた。これらの点については、次年度も重点事項として、対策を検討していく。

・豊かな心の育成におけるいじめ対応や不登校への対応などは、前年度から改善傾向にあるが、コロナ禍における制限の多い生活で生徒のストレスや家庭の事情などを考慮し、これまで以上に生徒や家庭に寄り添う姿勢や小さな変化を見逃さないような見守りの姿勢を大切にする必要がある。

・新型コロナウイルスに関するいじめや人権侵害については、保護者をはじめ、大人の人権意識がとても大切であり、その重要性が学校関係者評価でも指摘されている。次年度もＰＴＡと連携しながら、保護者をはじめ、家庭における人権意識の高揚を進めていく。

・毎月の生活アンケートや教育相談の充実に加え、毎週の各会議の有機的な連携体制が充実してきている。生徒からのサインに気づき、生活しやすい学習環境構築のため、今年度の連携体制をさらに継続推進していく。

・生徒の家庭学習の習慣化が本校における大きな課題である。今年度は、「自主学習」というノルマ的な学習でなく、「教科指導とその定着のための家庭学習の連動」を重視したが、どうすれば「学習習慣の構築」ができるのか、今一度検証していく必要があると考える。また、ＧＩＧＡスクール構想における一人一台のIpad の有効活用も考慮しつつ、家庭学習の習慣化を進めていく。

・コロナ禍において、国際化をどのように図っていくかは大きな課題である。今年度の反省を生かし、総合的な学習において、コミュニケーション能力やグローバルな価値観をどう育てていくかを計画に盛り込み、実践していきたい。

・評価・評定の算出や通知表の作成方法など、昨年度の大きく見直したものを、今年度具体的に運用実践した。この流れを継承しつつ、新学習指導要領に即した評価の在り方を検証して、指導と評価の一体化と働き方改革の推進を図っていく。